商品売買②

諸掛り

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　諸掛りの内容を理解しよう！

②　付随費用は、商品の取得原価に含めること！

③　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「仕入」勘定（費用）

「発送費」勘定（費用）

商品を仕入れる時や販売する時には商品を移動させるため、様々な費用がかかります。これを**諸掛り**（しょがかり）といいます。諸掛りとしては、発送費（送料）、運賃、荷役費（にやくひ）、保険料、購入手数料、関税などがあります。

商品を仕入れる際にかかった諸掛りを**仕入諸掛り**（しいれしょがかり）、商品を売り上げる際にかかった諸掛りを**売上諸掛り**（うりあげしょがかり）といいます。

（１）仕入諸掛り

① 当社負担

当社負担の仕入諸掛りは商品を購入するための**付随費用**（ふずいひよう）なので、固定資産と同様に、商品の取得原価に含めます。したがって、「**仕入**」勘定（**費用**）で処理します。なお、取得原価とは購入代価に付随費用を加算した金額です。

取得原価 ＝ 購入代価 ＋ 付随費用

例題　**商品800円を仕入れ、代金は掛けとした。なお、引取費用50円を現金で支払った。**

取得原価は購入代価800円＋付随費用(引取費用)50円＝850円となります。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
仕　入	**850**	**買 掛 金**	**800**
		現　金	**50**

② 取引先負担

取引先が負担する仕入諸掛りを立替払いした場合、後日、仕入諸掛りの代金を受け取ることができます。この場合、取引先が負担する仕入諸掛りは商品の取得原価に含めず、「**立替金**」勘定（**資産**）として処理します。

例題 **商品800円を仕入れ、代金は掛けとした。なお、仕入先負担の引取費用50円を現金で支払った。**

仕入諸掛りを仕入先が負担するので「立替金」勘定（資産）の増加として処理します。なお、当社が負担しないので、商品の取得原価に含めませんので注意して下さい。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕　入	**800**	**買掛金**	**800**
立替金	**50**	**現　金**	**50**

取引先が負担する諸掛りを立替払いした場合、仕入代金とあわせて精算するため「**買掛金**」勘定（**負債**）に含めて処理する場合があります。ただし、買掛金と立替金は本来、性質が異なるため、問題に指示がない場合（問題から判明する場合も含みます）は「**立替金**」勘定（**資産**）で処理すべきでしょう。

例題 **商品800円を仕入れ、代金は掛けとした。なお、仕入先負担の引取費用50円を現金で支払った。立て替えた金額は買掛金に含めて処理する。**

買掛金は購入代価800円－仕入先負担の引取費用50円＝750円となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕　入	**800**	**買掛金**	**750**
		現　金	**50**

この仕訳は以下のように分解するとわかりやすいでしょう。

仕　入　800 / 買掛金　800
買掛金　50 / 現　金　50

（2）売上諸掛り

①　当社負担

売上諸掛りは、「**発送費**」勘定（**費用**）で処理します。なお、「支払運賃」勘定（費用）や「発送運賃」勘定（費用）で処理することもあります。

例題　商品900円を売り上げ、代金は掛けとした。なお、発送費40円を現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**900**	**売上**	**900**
発送費	**40**	**現金**	**40**

②　取引先負担

売手が支払った売上諸掛りを買手に請求できる場合、商品の売上と商品の発送を一連の取引と考えて、特に指示がない場合は、受け取る売上諸掛りの金額は「**売上**」勘定（**収益**）で処理します。

例題　商品900円を売り上げ、発送費40円を加えた合計額を掛けとした。なお、発送費40円は後日支払うこととした。

発送費についても得意先から代金を得られ、商品の売上と商品の発送を一連の取引と考えて、売上は900円＋発送費40円＝940円となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**940**	**売上**	**940**
発送費	**40**	**未払金**	**40**

返品

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　**返品の内容を理解しよう！**

②　**仕訳をマスターしよう！**

主な勘定科目

①　**仕入戻し：「仕入」勘定（費用）**

②　**売上戻り：「売上」勘定（収益）**

（１）返品とは？

商品の品違いなどを理由に商品を仕入先に戻したり、得意先から戻ってくることを**返品**（へんぴん）といいます。仕入れた商品を返品することを**仕入戻し**（しいれもどし）、売り上げた商品が返品されることを**売上戻り**（うりあげもどり）といいます。

返品は仕入や売上がなかったことと同じですので、仕入時や売上時の仕訳を取り消す処理を行います。なお、通常、仕入時や売上時の借方科目と貸方科目を反対にした仕訳（逆仕訳）を行います。

（２）会計処理

①　仕入戻し

例題　**仕入先から掛仕入した商品100円を品違いのため返品した。**

仕入時に以下の仕訳を行っています。

仕　入　100 / 買　掛　金　100

仕入戻し時には、仕入を取り消す仕訳を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	**100**	**仕入**	**100**

②　売上戻り

例題　**得意先へ掛売上した商品120円（仕入原価100円）が品違いのため返品された。**

売上時に以下の仕訳を行っています。

売　掛　金　120 / 売　上　120

売上戻り時には、売上を取り消す仕訳を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売上	**120**	**売掛金**	**120**